

リサーチ・クリップ

2010/6/30 No.23

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題や、企業の従業員・地域社会といった様々な社会との関わりなどに関する記事や情報を紹介します。

ESG

UNEP FI ESGやサステナビリティ^(注)の普及を目的とした国際的ワークショップの成果を発表(5月6日)

UNEP FI (The United Nations Environment Programme Finance Initiative : 国連環境計画・金融イニシアティブ) は WBCSD(World Business Council for Sustainable Development : 持続可能な開発のための世界経済人会議) と共同で「Translating ESG into sustainable business value」を発表した。

同レポートは、UNEP FI と WBCSD が中心となって開催したワークショップで得られた主要な知見をまとめたものである。このワークショップは 2008 年以來、ESG やサステナビリティの普及を目的として、150 カ国以上の企業や投資家が参加している。

同レポートは、「1. 背景」「2. 企業と投資家の対話から得られた知見」「3. ESG 情報を提供する企業への助言」「4. ESG 情報を評価する投資家への助言」「5. 付録: ESG とサステナビリティに関する産業セクターにおける評価指標の例」「6. 結論」によって構成されている。以下では 1~6 のうち、2~5 について触れる。

まず、「2. 企業と投資家の対話から得られた知見」では、「ESG が経営者や資産運用者の間でメインストリームから外れてしまっている原因」について述べている。それによると、企業から提供された様々な情報を評価する資産運用者 (ESG を含めて企業価値を評価する資産運用者と、ESG を企業価値評価に含めない、いわゆる一般的な資産運用者) の間で、ESG に対する考え方に相違があるだけでなく、情報を発信する側の企業内においても、IR 担当者 (Investor Relations Managers) と CSR 担当者 (Corporate Sustainability Managers) の間でも、同様の問題が起きていることが原因であると分析している (図表 1 参照)。そして、これらのギャップを改善するためには、考え方の異なる資産運用者間だけでなく、企業内の IR 担当者と CSR 担

(注)「持続可能性」と訳される。ここでは、企業経営において長期的に持続可能な発展を志向する考え方のこと。ESG と関わりが深い。

当者の間においても、定期的なコミュニケーションの確立が必要であるとしている。

次に、「3. ESG 情報を提供する企業への助言」では、投資家が投資の意思決定の際に ESG やサステナビリティを組み入れるための企業の工夫について述べている。それによると、(1)「財務パフォーマンス/財務戦略」と「ESG/サステナビリティ」を分かりやすく結びつけること、(2) 定量的な ESG 情報の公表に際しては標準化を行う、(3) 定性的な ESG 情報の作成方法をきちんと定める、という3つのステップが上げられていた。

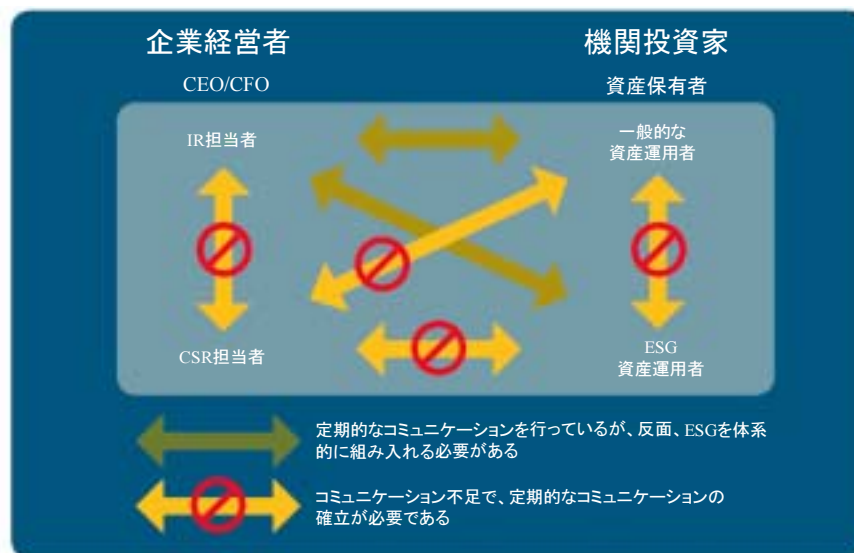
「4. ESG 情報を評価する投資家への助言」では、ESG やサステナビリティを組み入れるために投資家自身ができることを示している。投資家自身が ESG 情報を企業評価に利用できるようにするために、(1) ESG による企業評価の基本的な考えを打ち立てること、(2) 投資分析において定量的データと定性的データ両方を用いること、(3) 定性的な ESG データを収集する方法をきちんと定めること、ということである。

「5. 付録：ESG とサステナビリティに関する産業セクターにおける評価指標の例」では、多数の ESG の情報を用いた指標例が示されている。例えば「環境」の場合、定量的には「エネルギー使用と効率」や「エネルギーコストとその予想の概要」、定性的には「将来の炭素規制に際して、当該企業にどのようなリスクがあるか」などが示されている。

尚、同レポートの詳細については下記 UNEP FI のホームページにて参照できる。

<http://www.unepfi.org/fileadmin/documents/translatingESG.pdf>

図表 1 企業経営者と機関投資家の ESG に対する考え方の隔たり



出所：「Translating ESG into sustainable business value」より NFI 作成

(社会システム研究所 CSR 調査室 曾我 昂平)